

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ヤマトシジミ	シジミチョウ科	最も代表的なシジミ	○	○	○	全国

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草		食樹		発生回数/年		越冬形態					
カタバミ				5~6		幼虫					



川崎市 ハイム 7月2日 (2019年) ネジバナ (蘭の仲間) で吸蜜



川崎市 ハイム 10月12日 (2015年) ♂ 食草のカタバミで吸蜜



川崎市 多摩川土手 (稲田堤) ♂ 10月30日 (2019年)
センダングサ (見えない) で吸蜜

ツバメシジミ ♂
川崎市 多摩川土手 (中野島) 4月27日 (2003年)



「ヤマト一和」を冠するだけあって、どこにでもいる身近なシジミチョウです。食草のカタバミがどこにでも進出することから結果として、小さな蝶の割には、都会のど真ん中にも生息するたくましさを持っています。

ハイム内も同様にカタバミは多いので、春～秋にヤマトシジミもあちこちで観察できます。飛んでいるところだけ見ると、後羽にしっぽ (尾状突起) のあるツバメシジミと間違ふことがありますが、オスを比較すると、青～紫の光沢はツバメシジミが強くややマットでより色が薄いのがヤマトシジミです。メスはともに濃灰色です。

また、早春や晩秋の低温期には普通は濃灰色のメスの翅に青紫の鱗粉が散った俗称「アオメス」が混じり目を楽しませてくれます。



↑ 川崎市 多摩川土手（久地） 10月19日（2022年） 低温期のメス（アオメス）
通常では濃灰一色のメスが春先、晩秋の低温期には濃灰の地に青藍色の鱗粉を散らしたタイプが混じる。
ツバメシジミのメスにも同様な現象が見られる。



↑ ツバメシジミ 横浜市 3月23日（2021年） 低温期で青紫鱗粉の散ったメス（アオメス）



↑ 川崎市 4月13日（2021年） ドウダンツツジの葉上の新鮮なヤマトシジミ♂



↑ 川崎市 ハイム 7月30日（2023年）♂ タカオの花に飛来